

## 令和1年度 第1回岡山支部評議会 議事概要

開催日時：令和1年7月19日（金）14：00～16：00

開催場所：第一セントラルビル5階D会議室

出席評議員：浜田評議員（議長）・西尾評議員・岡山評議員・高谷評議員・岸評議員  
森川評議員・北野評議員・中原評議員

### 議題（1） 平成30年度決算について

事務局から資料に沿って説明。

#### 《学識経験者》

平成22年～平成24年にかけての保険料率引き上げや国庫補助率の16.4%への引き上げにより、最近の財政状況の改善があるとの理解でよろしいか。

（事務局）

そのとおり。

#### 《学識経験者》

収支差による保険料率0.02%引き下げは、全国平均10%からの引き下げになるのか。

（事務局）

岡山支部の令和2年度保険料率に対し0.02%引き下げ効果がある。全国平均には影響がない。

#### 《事業主》

保険料率を引き下げるといった議論にはならないのか。準備金の推移を見ると今後も積み上がり続けるように思えるが。

（事務局）

最近では被保険者数の伸び等の要因により準備金が積み上がっているが、今後の推計では、賃金上昇率が0%の場合だと2023年には単年度赤字になる見込みとなっている。2025年には団塊の世代が後期高齢者になることなども踏まえ、協会けんぽでは中長期的な視点から、10%を維持しているところ。

#### 《学識経験者》

国庫補助率の16.4%は暫定措置なのか。期限は決まっているのか。

（事務局）

現在の16.4%は法律で措置されており、期限があるものではない。

#### 《被保険者》

準備金の積み立てが多くなると国庫補助が減らされるのではないか。

（事務局）

16.4%は法律で措置されている。ただ、新たに準備金が積み上がった分の16.4%を国に返還することとなっている。

## 議題（２） 平成 30 年度支部事業実施結果について

事務局から資料に沿って説明。

### 《学識経験者》

医療機関を訪問しているとのことだが、誰と面会しているのか。

（事務局）

薬剤部長など、薬剤部門の責任者が多い。

### 《学識経験者》

タブレットによる特定保健指導はどのように実施するのか。

（事務局）

委託業者より対象者のいる事業所へタブレットを送付し、対象者と委託業者の保健師が画面越しに実施するもの。

### 《学識経験者》

この取組は初めて実施するのか、他の健康保険組合等での実施実績はあるのか。

（事務局）

岡山支部としては初めて実施するが、他支部での実績はある。健康保険組合の実施の有無は把握していない。

### 《学識経験者》

重症化予防事業の KPI が 11.8%となっているが、医療機関の受診を勧められるレベルの方の受診率 1 割というのは、目標が低いのではないか。

（事務局）

健診により指摘された方の受診率が 11.8%ではない。健診後 3 か月間医療機関の受診が確認できない方に対し受診勧奨を実施しており、その後 3 か月以内に医療機関で受診した方の割合である。

### 《学識経験者》

受診の有無はレセプトを確認しているのか。

（事務局）

そのとおり。

## 議題（３） 支部取組に対する意見について

事務局より資料に沿って説明。

### 《学識経験者》

インセンティブ制度については全国でも、岡山支部でも認知度が 1 割程度となっているが、今までどのような広報を実施してきたのか。

（事務局）

岡山支部では独自の冊子を作成のうえ事業所への配付や、研修会で説明資料に使用している。また、広報誌、ホームページやメールマガジンといった媒体を活用した広報も実施している。

《被保険者》

冊子をいただき社内に掲示したが、中身が難しいのか従業員が関心を持ってくれない。もっとわかりやすい内容の啓発物を作成して欲しい。

《事業主》

制度全て説明しようとするとうとう難しい内容になる。「このままなら健康保険料率が上がります」といったわかりやすい内容が良い。

《被保険者》

ジェネリック医薬品の使用促進については、先発薬の方がいい薬といったイメージがある。そのイメージをどう払拭するかが重要だと思う。

《学識経験者》

ジェネリック医薬品に切り替えたことにより、効き目が悪くなった事例はあるのか。

(事務局)

薬の有効成分は同じであるが、例えば貼り薬で貼り心地が違うといった、感覚的なところの違いはあると聞いている。

《学識経験者》

ジェネリック医薬品の使用割合について、新指標になり数値を落とした理由はなにか。

(事務局)

旧指標では院外処方分のみを集計していたが、新指標では院内処方、歯科などすべてを含めることとなった。岡山支部はジェネリック医薬品の使用割合が低い院内処方の割合が全国平均より10%ほど高いなどの理由により、数値を大きく落とした。

《学識経験者》

院内処方の場合、患者がジェネリック医薬品に切り替える機会がない。加入者へ訴えかけるより医療機関への訴えかけを強化するべき。

《被保険者》

保険証送付時に同封しているとのことだが、すでに保険証を持っている人は存在を忘れていていると思う。改めて配布するなどが必要ではないか。

《被保険者》

「先発薬と変わりません」と言われるほど、「じゃあなぜ安いのか」と疑問になる。そういう意識を払拭するには、粘り強く広報していくしかない。

《学識経験者》

不信感を払拭するには科学的データを示す必要がある。

《学識》

ジェネリックの使用割合も15年ぐらい前はものすごく低かった。そのころに比べればかなり普及してきたと感じる。医師会なども反対ではないのではないか。

岡山支部においてもかなり普及していると思うので、あとは個別の医療機関毎に対応していくしかないのではないか。

《事業主》

インセンティブ制度もジェネリックについても広報の問題だと思う。企業のトップに理解してもらう必要がある。インセンティブの仕組みやジェネリックシールについて企業

のトップがどれだけ知っているか。保険料率引き下げにつながるといえば興味を持ち、社内に周知するのではないか。

《学識経験者》

家族の健診受診対策は現在どのようなことを実施しているのか。

(事務局)

- ・内容がシンプルであり物足りなさを感じる方も多いため、女性の方向けのがん検診やオプションを追加し興味を持ってもらえるようにしている。
- ・また会場によっても集客に差がある。イオンで実施している健診は集客も多く、他の会場より若い層が多く受診する傾向もある。
- ・健活企業と協力し事業主と支部長連名の受診勧奨も実施している。

《学識経験者》

重症化予防事業の対象になるはどのような方が多いのか。

(事務局)

協会けんぽでは血糖、血圧の値が高い方へ医療機関への受診勧奨を実施している。

《学識経験者》

富山市が公表したデータでは公共交通機関を利用する人は歩数も増え、医療費が少ないという結果が出ていた。そういった視点で医療費適正化を進めてみてはどうか。

## 報告事項

事務局より資料に沿って説明

《学識経験者》

被扶養者の認定要件について、海外に留学すると被扶養者から外れることになるのか。

(事務局)

生活の基礎が日本であれば被扶養者に認められる。現在問題になっているのは日本で働く外国人の方の家族が、外国に住んでいながら日本の健康保険の恩恵を受けている点である。今後は日本に生活実態がないと被扶養者ではなくなる。

《学識経験者》

資格のオンライン確認について、保険証の代わりにマイナンバーカードで受診することが可能となるのか。

(事務局)

協会では保険証の使用を想定している。マイナンバーカードは普及率の問題がある。